資料１―３

多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について
（審議のまとめ）
※教職員支援機構に関連する部分の抜粋

令和8年9月 17 日

Ⅲ．主な改革事項

1．教職課程の質と量の担保・向上

（3）教職課程の確実な実現を担保する措置

〇教職員支援機構（NITS）が教育実習の質担保に関与する必要性について更に検討が必要。

〇コアカリキュラムを見直し・新設。CBT 問題を作成の上、Plant（全国教員研修プラットフォーム）に搭載（Plant を改修し、養成段階から利用可能に）。コアカリキュラム及び CBT 問題を、令和9年度から共同実施される教員採用試験一次選考と連動。
CBT は、反転学修含め、授業の事前事後学習において利用。コアカリキュラムに定める目標の到達状況の確認にも活用（CBT で確認できる全体目標は、資質能力の一部である前提、達成すべき必要条件であって十分条件でない点、大学における教員養成の趣旨を踏まえ、教職課程の目的が CBT の結果の確保とならない点に留意。また、当該 CBT の導入により、教師を志望する学生の減少や免許取得者の減少とならないよう、制度設計において留意）。

〇Plant に搭載されているデジタルコンテンツを活用した教職課程の学修基盤の充実も併せて必要（FD/SD 等の強化にも利用）。

（4）教師の資質能力の恒常的な向上

〇初任研と中堅研、対話（ワン・オン・ワン）と奨励の在り方、Plant の活用方法については、実態の把握をした上で、活用促進方策や改善方策を検討していくことが必要。初任研については、養成段階で強み専門性を学修していることを前提に再設計が必要。

〇教員採用選考における第一次選考の共同実施を通じて、問題の質の担保を図りつつ、コアカリキュラム・CBT 問題と連動（再掲）。

〇入職前の研修の在り方も検討が必要。その際には入職前の研修と初任研を一体的に捉えて検討が必要。

〇「調整授業時数制度」の創設が検討される中、組織的な研究・研修の機会など、教師の資質能力向上の機会となるような設計について検討が必要。

2. 多様な専門性や背景等を有する社会人等が教職へ参入しやすくなるような制度の在り方

（2）特別免許状において、これまでの指針の周知にとどまらず、都道府県における免許授与促進の妨げになっている資質能力の立証の困難性を克服し、より出しやすい環境を整え、多様な社会人の入職を加速することが必要。具体的には、以下の可能性が考えられるところ、更に検討が必要。

・国における一定の授与基準・目安の提示。審査会の形式などの具体的な例示
・教員資格認定試験の一部を用いた能力立証への代替（後述）
・民間の取組に対する一定の認証
・大学（院）における一定のプログラムの認定（後述）
・独立行政法人教職員支援機構（NITS）におけるコンテンツ等を活用した入職者の能力立証　等

（5）普通免許状においても、通常のルートとは別に、①教職特別課程、②通信制、③大学院新教育課程（後述）、④教員資格認定試験といった多様な選択肢を用意し、社会人がしっかりとした能力立証による多様な免許授与を可能とすべきであり、以下の点について更に検討。

②教員資格認定試験については、対象範囲（対象校種・教科）・実施方法・受験料など、試験の質担保のための方策や、試験合格後の研修の在り方も含めて、今後更に検討が必要。併せて、合否だけでなく、構成する科目の合格をもって特別免許状等の一部の能力立証に用いることを可能とすることについても検討。

（9）高校改革等に対応する観点から、強み専門性の学修を踏まえて、隣接免許・隣接校種がより取りやすくなるよう制度改正を実施。その際、現行においても、中学・高校の免許において特定の教科に関し、教職に関する科目の一部または全部を教科に関する専門的事項で代替できるとされているところ、その拡大も含め、全体として整理が必要。

併せて、大学の学科においてより柔軟に免許が取得できる方策などについて更に検討。更に、各都道府県で高校改革を先導する人材育成に係る NITS による支援の在り方を検討。

（11）教職員だけでなく、学校に関わる幅広いチーム学校メンバーが学校で働くに当たっての研修機会を Plant を活用するなどして提供（後述）。

（15）教師の魅力を伝え、その志望者を増やすための広報戦略が必要。

3. 今後更に検討・議論が必要な事項

（2）NITS の在り方

〇全国の教育委員会や研修センター、学校現場、大学・教職大学院、民間企業等の多様な主体のネットワークをつなぐハブ機能としての NITS の役割の重要性、設置趣旨を踏まえた役割の抜本的強化。

（養成段階（教育実習の質保証への関与（再掲）、CBT 問題作成・掲載含めた Plant の機能強化・管理運営等含む）、採用段階（教員採用選考の共同実施等含む）との関わり方　等）

〇能力立証に基づく多様な人材確保支援の在り方。

・教員資格認定試験の在り方

・NITS におけるコンテンツ等を活用した能力立証　等（再掲）

〇私立学校教員、社会人入職者・復職教員、ペーパーティーチャー、教員以外のチーム学校のメンバー、教職課程を担う教員などに対する研修機会の充実のための NITS の関与や支援の在り方。

〇高校改革を先導する人材の育成・資質向上支援の在り方。

〇NITS の役割の抜本的強化を実現するための体制整備の在り方。

（4）生成 AI 時代の教師・学校の役割

〇教育は、教師と児童生徒との人格的な触れ合いを通じて行われるものであり、人間が人間の温かみをもって全ての子供たちに接していく、という考え方の下、適切な指導計画や学習環境の設定、丁寧な見取りと支援といった子供の学びをデザインし、発達を支援する教師・学校の役割の考え方を検討。

〇教育が目指す姿そのものが高くなり、更には別次元のものともなりうることを前提に、次期学習指導要領を念頭に置いた教職課程の改善にとどまらず、教師の役割や子供の学びのスタイル、学校という場に集い対面で学ぶことの意味など含め、将来を見据え、今後の方向性に係る掘り下げた検討／問い直しが必要[1]。

〇検討においては、現場を中心に、大人だけでなく子供の考えや発想も大切にしながら、教師が教育を通じて新たな価値創造を行うことを目指して検討を行うことが必要。

[1] 検討においては、AI の活用については、教師の業務の代替にとどまらない、教師の専門性の補完・拡張という考え方を踏まえる（再掲）。